

# 2024年 防災訓練 結果報告

2025年1月5日

和合町自主防災隊 松山 義昭

2024年元旦に発生した能登半島地震の状況を目の当たりにし、自主防災隊として、発生しうる南海トラフ地震を現実的なものと捉え、各部隊単位でより実践的な防災活動が行えるように防災計画を見直しました。また防災訓練においても、新しい取り組みとして災害時に各戸が安全を示す「安否確認タオル」を導入し、従来の泉小での本部訓練に加え、町内全域で安否確認タオルの掲出訓練、部単位でその数を確認する訓練を行いました。

本報告では、防災訓練の反省会やアンケートでの皆様からの貴重なご意見を掲載しており、内容を精査しながら、今後の活動に生かしてまいります。皆様のご協力ありがとうございました。

なお、防災訓練の内容については、「令和6年度防災訓練実施計画書」を参照ください。

## 1. 防災訓練の結果報告 および 自主防災隊の課題

### (1)安否確認結果(時間内に確認できたタオル掲出数)

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	計
1部	2	24	27	16		19		88
2部	6	16	14	7	10	10		63
3部	51	15	58	13	44	44		225
4部	23	19	27	46	43	24	25	207
5部	16	42	19	38	23	51	43	232
6部	18	26	35	39	21	53	41	233
7部	69	31	65	43				208
8部	4	15	60					79
合計	189	188	305	202	141	201	109	1,335

### (2)泉小への避難者数

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	部隊	計
1部	2	4	5	10	2	8	-	15	46
2部	2	2	6	4	1	6		15	36
3部	1	4	9	10	4	5		29	62
4部	4	5	8	8	14	14	10	25	88
5部	6	7	6	11	4	11	17	23	85
6部	4	4	7	5	1	11	10	33	75
7部	14	11	6	8				15	54
8部	5	8	6					13	32
合計	38	45	53	56	26	55	37	168	478

## (3)一次避難所、部隊 → 在宅避難者数

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	部隊	計
1部	0	10	6					7	23
2部	0	0	0	2	0	0			2
3部	3	0	10		22	7		0	42
4部	4	4	7	17	7	7	1	7	54
5部	0	0	5	4	2	6	8	7	32
6部	1	7	0	0	1	10	1		20
7部	3	2	4	1				7	17
8部	1	3	6					2	12
合計	12	26	38	24	32	30	10	30	202

## &lt;自治会で把握した課題&gt;

## (4)安否確認用タオルの導入について

## ①配布方法について

全戸配布について(未加入者への対応)

→ まだ届いていない人がいる。届けられなかった分の回収と、再配布の方法を要検討

## ②黄色いタオルの使い方の周知について

使い方がわからない人がいる。

防災ニュース、説明文の添付では不十分か？

何か良い方法があるか。周知活動の継続が解決？

## (5)安否確認訓練について

## ① 当日の黄色いタオル掲出について

・掲出場所、方法について

掲出場所の特定をする必要がある？ → マンションなどはベランダとか。

・掲出していた世帯の総数 1,335

・掲出しなかった世帯の世代別調査(アンケート等)をしておく

## ② 安否確認の方法について

## ③ 中学生のボランティアについて(学校側の対応、訓練時のみ)

## ④ 今後の対応の提案(訓練日、確認する人、方法)

## (6)部隊の立ち上げについて

① 部隊を防災倉庫に立ち上げ、今年度はそこを拠点として安否確認訓練を行った。

② 今後の自主防災隊の支援体制を部単位でおこなうにあたり、部単位での訓練が必要。

(消火訓練、物資訓練、避難訓練、救護訓練等)

- ③ 部の防災倉庫の備蓄品の充実を図る(内容の精査)

(7)今後の防災訓練について

- ① 今年をふまえ、意味のある訓練を行うためにどうしていくのが良いかを考える
- ② 在宅避難を推奨する上でどのような訓練を行うのが実践的か
- ③ 組織としての訓練をどのような形でつないでいくか

(8)防災活動全般について

- ① 町民への防災体制等の周知をいかに行っていくか  
今まで通りの擦り込みが大きく、周知してもほとんどの人には届かない。
- ② 防災隊の組織について  
専任の防災隊員・班員を決めるなどして、訓練時のみ活動するような組織を見直す必要がある。
- ③ 災害時避難行動要支援者等への対応を見直す必要がある  
防災倉庫中期整備計画今年をふまえ、意味のある訓練を行うためにどうしていくのが良いかを考える
- ④ 中期(5か年程度)防災計画の策定を行う必要がある。(本年度の取り組みも含め、新しい形を根付かせる活動)

## 2. 防災訓練反省会でのご意見

(皆様からのご意見を掲載します。対応については今後検討を行ってまいります)

- ・ 安否確認用に渡された地図は古くて、現状とあっていない。一番新しいものにしてほしい。
- ・ 安否確認をする際、部隊倉庫まで距離があるので、集まってから確認へ行くのではなく、集まりながらの途中で確認をしていくやり方もできるのではないかと。やり方については事前に各組で決めておく。
- ・ 地図の紙の厚さが薄く、ボールペンでマークしにくかった。バインダーに閉じるなどしてほしい
- ・ 泉小学校まで遠く(8部)、時間内に確認しきれなかった。事前の相談が必要だった。
- ・ 各部防災倉庫の場所、数も今後見直す必要がある。
- ・ 組ごとの安否確認結果を部隊倉庫に持ち寄るのであれば、第2次緊急避難場所(復活)に集まる際に報告しても良いのではないかと。
- ・ 防災倉庫に机やイスを置いておく
- ・ 発電機について再考が必要。
  - 照明や携帯の充電なら、ソーラー+蓄電池の活用もあるのではないかと
  - リチウム蓄電池を置く場合、ガスが発生するので、通気性を考えないといけない
  - 発電機は良いが、最低1年に1回は、定期的な点検が必要。誰がやるかが課題。
- ・ 倉庫の点検を、どれが担当し、どうやって行くかが課題(現在は2人だけ)
- ・ 無線が届かない、という問題があったが、アンテナの長いほうを使う、ボリュームを最大にする、というアナウンスができていなかった。とはいえ、そういう場合にそなえて、中継者を決めて、本

部までつなぐ訓練もしておいたほうが良い。

- ・ 副会長が無線機を常に携帯しておく、と決めたが周知ができていなかった。無線機の追加購入も含めて今後検討していく
- ・ 前年同じことをする必要はないというが、確かに今年は今までとはガラッと変わって、一時避難所から本部に行く、倉庫に集まるっていうやり方がだいぶ変わったが、継続性も大切なので、ある程度は続けて改善点を見つけていくようにしてほしい
- ・ 泉町との合同訓練をやって、避難所がどうなるのか、何が問題になるのかを見つけていくのことも必要
- ・ 補給物資は避難所(泉小)へ届く。そこから部隊倉庫への搬送をだれがどのように行うかを考えておく必要がある。
- ・ 多くの人々が泉小へ避難したくてもスペースは限られる。在宅避難が基本となるので、物資の調達含めそのケアを考えていく必要がある(特に自分で動けない人たち)
- ・ 防災班員は班長だけでなく、班員にもヘルメットを配ってほしい
- ・ 救急セットの一括管理(現在は救護班長が所持)を検討する

#### (4 部 影山部長が事前に意見見集約していただいた反省・ご意見・提案)

- ・ 今年度から始まった「安否確認タオル」が避難訓練-欠席への免罪符として住民の心理に作用し、参加率の低下につながってはいないか？
- ・ 避難訓練への参加構成として「年配者」の比率が高く、自治会の運営に不安を感じる
- ・ 来年度から救護バッグを防災倉庫へ配備すると伺ったが、第一次避難場所にもファーストエイドの観点から救護バッグの必要性を感じる
- ・ 第一次避難場所から泉小学校へ三々五々、向かったので到着してからの人数確認がスムーズにできず反省
- ・ 車いすユーザが2件あったが災害時の「避難行動要支援者名簿」に未登録だったので、該当者の意向を交えての対応が必要
- ・ 第4部隊における中学生ボランティアの参加者数は9名と多かったのに対し、他の部隊では少数だったとのことで、このバラツキは北部中学校での募集告知が各学級の担任より異なっていたのが原因で今後、改善すべき点
- ・ 安否確認において、オートロック式の集合住宅では玄関先まで住民以外は入館できないため、集合ポストやベランダ・バルコニーへの黄色タオルの掲示を検討しては？
- ・ 防災倉庫は利便性の高い部の中心付近に設置したほうが有効。
- ・ 安否確認の最中に待機されていた人材は泉小学校までの避難ルートの調査、並びに防災倉庫への避難道中の危険箇所を抽出するなど、時間の有効利用を提案。
- ・ 泉小学校への移動中に隊列が長く伸び、一度で信号を横断できず危険。少なくとも訓練時の移動の際にはトラロープを用いて隊列を組む必要はないが、一塊になって移動することはリスク低減の一助。
- ・ 4部における安否確認タオルの掲示数は214件/589件(※36%)と、和合町全体より若干多いが、住民の防災意識に対する啓もう活動が今後は必要

- ・ 4部5組エリアの「和合往還」は、道の両側が地肌剥き出しの急こう配の坂道で過去に土砂崩れが発生していたとのことだが、市は土留め板を仮設したのみで、擁壁は未設置。防災倉庫への避難ルート以前に、生活道路でもあるため、早急に安全対策を要望
- ・ 安否タオルの購入に関する予算的なご指摘 → 1枚104円で購入しています。ご理解をお願いします。
- ・ 実施方法を変更しての初回訓練だったため、参加者、部隊長の役割の見直し、工程のブラッシュアップが必要。

### 3. アンケート結果集計（自由記述については原文のまま）

(1) 回答者数:26名

(2) 部別内訳:

1部	2部	3部	4部	5部	6部	7部	8部
2	1	4	6	7	4	1	1

(3) 年代別内訳:

20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
1	4	4	2	3	8	4

(4) 質問:防災訓練当日、黄色いタオルを玄関先に出しましたか？

はい:25名 いいえ:1名

(5) 質問:第一次避難所へ行きましたか？

行った	10
行った(防災隊員)	2
行かなかった:	10
行かなかった(防災倉庫へ集合した)	4

(6) 行かなかった理由は何ですか

用事があったので、参加できなかった	1
仕事でした	1
子供の予定があった為。	1
遠いので行くことが難しかった	3
あまり歩けない	1
家族の病気	1
第一次緊急避難場所を知らない	1
そもそも避難しようとは思わなかった	1

(7) 質問:安否確認訓練についてご意見・ご指摘・ご感想をお聞かせください(自由記述)

情報班として参加しました。当日は安否確認をする場所が変わり(自分の担当地区はボランティアの中学生たちが回ること)、知らない場所の安否確認だったので地図を見ながらでしたがチェックするのが大変でした。

また通り沿いが玄関でない家、奥まったところに玄関がある家などがあり、玄関を探すのに苦労しました(中には表札のない家も数軒ありました)。訓練の周知が行き届いていないからか、タオルの

チェックのために敷地内をうろうろすることもあり、不審がられているなという印象でした。

タオルのある家は安全＝安否確認が効率的にできるというアイデアはとて面白いと思うので、もっと周知されるといいなと思います。そして訓練でさえ当日は予定外にバタバタしてしまったので、実際に災害があった時に上手くいくかとても不安に感じましたし、時間内に行動することの大変さを実感しました。

(8) 質問: 泉小での訓練に参加した方(16名)のご意見(自由記述)

- ・ ポンプ隊訓練で皆さん放水訓練、人命救助、担架への患者さんの乗せ方、ポンプ隊のホース延ばしと巻き取りタイム取り(60秒以内)一生懸命でした。
- ・ ボーイスカウトの皆さん宿泊訓練すごいです。
- ・ さまざまブースがあり、各ブースに自由に回ることができて良かった。
- ・ 司会などの話している声が聞こえなかった。
- ・ 熟練者の指導は得難い経験 より多くの参加を促すと良いと思う
- ・ 毎年恒例の訓練内容でしたが、参加者が少なくて残念に思いました。
- ・ 「在宅避難」を唱えすぎて第一避難所で帰宅してしまう人が多すぎます。
- ・ 運動場でのアナウンスがほとんど聞こえませんでした。
- ・ 炎天下で暑くて大変でしたが楽しさもありためにもなりました。
- ・ 自由参加につき、ほとんど何もしないでお土産をもらって帰りました。以前に比べて参加人数も少なかったとおもいます。
- ・ どれも必要な内容だと思いますのでよかったです。体育館内でのレジ袋を使って作製する簡易三角巾は有用だと思いました。
- ・ 自由行動だったので各部の人達のまとまり意識が薄いと思います。やっぱり 以前の様に一緒に避難して来た人が一度はグラウンドに整列して防災隊長の話聞く等一致団結のパフォーマンスが欲しいと思います。

(9) 質問: 今後実施すべき訓練などがあればご提案ください(自由記述)

- ・ 体育館での講話もためになりました。しかしその時間を使い各部対抗勝負をしたらどうですか。  
例 用意ドン 各部代表2人スタートしてグラウンドの第1関門まで走る
  - ① 第1関門。 2人でジャッキで20回を回す(声出して20回)その後第2関門まで走る
  - ② 第2関門 待機していた2人で毛布担架を作る・・・その後毛布担架を第3関門まで搬送
  - ③ 第3関門 待機していた5人で毛布担架に1人を乗せて第4関門まで歩く
  - ④ 第4関門 待機していた救急班5人が患者を担架から降ろす。終了
 各部選手合計14人必要  
 楽しく救助や搬送が出来たらいいかな。もちろん各訓練を見た後で実施です。
- ・ 自宅避難での心得を具体的に学びたい。
- ・ 緊急時の行動面の指導にプラスして 動揺を抑える心構えのあり方 の教育
- ・ 足の悪いお年寄りなどの避難訓練

- ・ 防災倉庫の備品点検が必要ですね
- ・ 防災会議の際席は、やっぱり自由席ではなく各部 組 班が グループを作るべきだと思います。訓練の当日 初対面だとやはり色いろな面でスムーズに行かないと思いました。

(10) 質問:あなたの部の防災倉庫がどこにあるか知っていますか?

知っている	10
今回の訓練で確認した	2
知らない	1
防災倉庫があることを知らなかった	2
無回答	11

(11) 質問:各部の防災倉庫に備蓄すべきものは何だと思えますか(自由記述)

- ・ 机。椅子。充電式発電機(毎月充電で馬生会館保管)。担架・毛布・救助機器(ジャッキ・バール・スコップ等救助機器一式。一輪車(タイヤはゴム製で空気入れないタイヤ・救急用具一式。安否確認地図に必要なもの一式。拡声器。トランプ等遊ぶもの。簡易トイレ。ランプ(電池式でもいいですが夜間照明用)テント(キャンプ用でもいい)登山でコーヒー等沸かすガス付きコンロまたはカセットコンロ。紙の食器及び紙のコップ。ホワイトボード。
- ・ ロープ。食べ物は必要ないと思う(各自自宅保管しているので)。一斗缶(焚火)、やかん(湯沸かし)、まだあると思えますが、月に1回点検する体制を。
- ・ 防寒シート
- ・ 各家に3日以上分の食料、簡易トイレ、懐中電灯
- ・ 水と食料
- ・ トイレ・非常食・水・毛布・テント
- ・ 従来品に加え 悪天候時を注視した物品類
- ・ 共用の防災備品として部の倉庫に一番必要なものはなんだろうと思っても、メンテや消費期限などの管理を思うと難しい[あてにならない)ですね。
- ・ 簡易トイレ
- ・ 蓄電池です。
- ・ 赤ちゃん用品(おむつ)や女性用のナプキン
- ・ 飲料水や非常食、常備薬など必要不可欠なものは各自、各家庭で常備するのが基本ですので、ひなが長引いて自治体や国からの支援が届くまでの補いに必要な物を精選して備蓄するとよいのではないのでしょうか。倉庫もスペースに限りがあるため。
- ・ 防災訓練の時紹介のあった 有る程度の食品 水 簡易トイレ等

(12) 質問:防災倉庫の活用についてご意見があればお教えてください(自由記述)

- ・ 以前は草刈り等があり、組単位で近所の方々の顔を見ました。今後は各組当番制で防災倉庫の点検しては。又は、自治会定例会が毎月ありなので部長組長の当番制で点検

- ・ 管理担当者不在時の緊急時での解錠手段の設定
- ・ 簡易トイレ、飲料水用ポリタン〔容器のみ〕、ゴミ袋、ブルーシート、ロープ等メンテフリーの備品に絞って備蓄したらどうでしょうか。〔非常食、飲料水、ライト等は全体倉庫へ〕
- ・ 賞味期限の切れない前の食料品の活用です。
- ・ 各自が防災倉庫の場所及び備蓄備品を知っていることが必要ではないかと思います。

(13) 質問:自主防災隊活動(防災訓練、普段からの防災活動)についてご意見をお聞かせください

- ・ 防災ニュースが役に立っています。
- ・ 前向きな取り組みをされており、非常に頭が下がります。とても大変かと思いますが、今後も引き続き宜しくお願いします。
- ・ 今回初めて参加しましたが、地域の安全のために皆さん活動してくださっているのだなとありがたくなりましたし、防災意識が高まり、自分もいざという時に動けるようになりたいと思えました。
- ・ 訓練というのもあり、それぞれの人のやる気の温度差も違って、何をすればいいか人に聞かないと分からないという人もいたので、簡易的な防災マニュアルがあると良いなと思いました(黄色のタオルと保管したい)
- ・ もしマニュアルをつくるなら、ペットのいるご家庭向けの情報も入っているといいなと思います。
- ・ 5部1組は深谷マンションの駐車場が避難場所に数年前に変更したが、まだ認知度がなく、以前の場所だと思っていた方やどこだか迷ったとの声があった。また、1組は深谷マンションより東で、ほとんどの方がアサヒプラザ横の階段下の地域に住んでいるのに、わざわざ泉小と逆側の深谷マンション駐車場まで階段を登ってこなくてはいけないのはどうなんだろう、とも声があった。
- ・ 去年までは第二次避難場所としても位置づけされていたため、深谷マンション前でも良かったのだが、今年度やってみて、第二次避難場所は廃止されていて、組ごと別々で泉小に向かう形にするのであれば、アサヒプラザ階段下のどこかに避難場所を変更してもよいのではないかと思った。
- ・ ご高齢の方も多い地域のため、避難場所が近いほうがありがたいと思った。(なお、各組ごと泉小に行くのはスムーズで良かったと思った)
- ・ また、班長の役割は明確で引き継ぎされた荷物や事前会議もあって、分かりやすいのだが、班員の役割がわからないと思った。
- ・ 実際引き継ぎの荷物もなく、当日までの資料もポストに入っただけだった、と聞いた。
- ・ 当日参加してくれた班員もどれほどいたのかはわからないが、名ばかりになっている所もあると思う。
- ・ それぞれの意識の問題ではあるが、部隊に名前がある以上、任期内の数少ない活動なので、班長と共に参加してもらえるようになると思う。
- ・ そして、年度毎に新たに編成され、引き継ぎはされるのだが、避難訓練までの4月～11月は

実際何も活動がないため、この期間に災害が起きても、新しく編成された方が動けるとは思わない。

- ・ 2年が任期というのは、2年目の方が班長、1年目の方が班員、となって、伝えていくという仕組みならわかるが、5部1組は少なくとも2年同じ人が班長や班員でやっているのが現状で、この意味があるのか疑問に感じた。
- ・ 以前はそのような流れでやっていたのかもしれないが、現状は違うので、4月～11月の時期にも機能する部隊にするならば、一度決め方も見直しが必要かと思った。
- ・ 細かく役割が決まっていますが、災害発生時に本当に機能しますか？もっと大きく役割をまとめた方が良いのではありませんか？
- ・ その時の状況なので判断が、むずかしい
- ・ 続けられたら良い
- ・ 数項目あり 12月号に記載のURLに キーボードで入力したいのですが URLが開けず戸惑っています 改めて機会のある時 提示させて頂きます
- ・ せっかく「黄色のタオル」を全戸配布してくれたので、定期的に掲揚する訓練をご検討願います。

例えばですが、第三金曜日を「環境美化の日」として役員さんがのぼり旗を掲揚されていますが、この日に合わせて「防災の日」として午前中掲揚するとか、、、防災意識を継続させるひとつの訓練になるかな？と思っています。

- ・ いつも、いろんなお便りありがとうございます。いろんな情報を役立てていきたいです。
- ・ 若者や子どもがもっと参加しやすいようにイベントや簡単でも訓練の機会を増やしてみてもうでしょうか
- ・ いつも感謝しています。
- ・ 年1回では少ないと思います。
- ・ 中学生の子どもと、予定がなにもなくなったので一緒に参加しました。ビニール袋で腕を固定させる方法や、心配蘇生の仕方を学ぶことができ良かったです。
- ・ 当日参加でも防災訓練参加証明書をもらえるとのことで担当の方をお願いしたところ、「事前にボランティア登録をして、役割を果たさなきゃだめだよ。当日来なくてもいいからまずは登録からしっかりやってください」と、怒られました。部活動や習い事、兄弟の用事等もあるため、当日の予定が確定しなかったため登録を見送ったのですが、当日来なければきっと怒られる、急遽参加しても怒られてしまったので、我が子はやる気をなくしました。二度と参加したくないそうです。若い方にボランティアの参加をお願いしたいのであれば、今一度子供たちへの声かけを考え直して欲しいです。
- ・ 地震のみならず、大雨や川の氾濫等の自然災害は一年中起こり得るため、個々人の意識づけが第一だと思います。そのうえで、特に同じ組、班の方との日頃からの連帯意識も大事だと思います。
- ・ 常日頃、自主防災隊の皆様の活動に感謝しております。
- ・ 防災訓練に参加しなかったのですが、黄色のタオルを出すことによって訓練に参加した気持ち

になりました。黄色のタオルはもしもの時に、いつでも出すことが出来るように玄関近くに保管しています。

- ・ 今後もよろしくお願いします 🙏
- ・ ありがたい事に私達の地域は安全な場所なので 意外と防災意識は、薄いと思います でも大災害の時は、想像外の事が起きる事を そして起こりえる事を もっと意識しなくては行けないと思います
- ・ 一人暮らしなので安否確認だけお願いします
- ・ 日々役員様のご活躍には敬意を持って居りますが いざ大事になった時年齢層の若い人も構成員になっていて欲しいと思います
- ・ 泉小への避難は遠すぎて足が悪い高齢者には難しい

以上